

やる気スイッチはない、必要なのは……

来週には期末テストがあります。今朝の新聞には公立高校の志願状況が発表されています。テストや志願状況がやる気を奮い立たせるかもしれませんが、私が今読んでいる本には「やる気スイッチはない」とはつきりと書いてあります。読んでみると、「なるほど!」と思えることばかりです。

その本の題名は「中学勉強法」。表紙の片隅には「学年順位アップ率96.6%!」と書かれています。私はその数字にひきつけられ読み始めました。書いてあることは納得できることばかり!ポイントには付箋を付けて読み進めました。

某塾のCMで「やる気スイッチ」という言葉が流れているのを知っていますか。だれもがいつかはやる気を出し、勉強に打ち込む日が来るだろうと、その言葉が思わせてしまいます。しかし、その本には次のようにはつきりと書かれています。

「やる気スイッチなんてない。やる気はやってから出るもの。やる気はなくて当然。あつたらラッキー。」

これだけでは不安ですよね。「では、何が勉強のモチベーションになるの?」と尋ねたくなくなってきます。この本には、その答えとして次のように書かれています。

「勉強が得意な子たちが落ち着いて取り組んでいるのは『やる気』ではなく『習慣』に頼って勉強しているからです。

『やる気』に頼った勉強というのは、たき火のようなもので、はじめは大きな炎が上がるものの、火力は安定せずに、気を抜くとすぐに燃え尽きます。

『習慣』に頼った勉強というのは炭火のようなもので、炎を見せずに静かに内部を燃やし、長時間高温を放ち続けます。」

俗に言う「勉強ができる子」は、やる気に満ちた子ではなく、勉強が習慣として生活に位置づいている子のことです。したがって、まずは学習習慣をつけることが大切だということです。

現在、北中で取り組んでいる「SPT」、これこそ学習習慣を確かなものにするのを狙った取り組みです。あなたは「SPT」を大切に使っていますか。していないとしたら、その時点で問題ありかも。SPTの目的は、筆者が主張していることそのものだと、私は確信しました。

しかし、習慣の中身も大切です。「どんなに遅くとも23時には就寝する」「ピントの外れた勉強はやめなさい」などともこの筆者は書いています。後者の「ピント外れの勉強」をやっている人が結構多いかもしれないよ。

細かい内容については、この「校長メッセージ」でこれから少しずつ情報提供していきます。自分の勉強にぜひ役立ててくださいね。

(二月十七日 記)

【くにたて式】
中学勉強法

学年順位
アップ率
96.6%!

国立拓治 北中副校長 代表

偏差値20アップは当たり前!
個別指導塾で20年超る2000人以上の実績!!

中間・期末テスト、内申、高校入試
点数を驚くほど伸ばすコツ、
すべて明かします!

【読者特典】本書オリジナル「知って得する」録音CDプレゼント
※予約購入時、送料別。送料は別途。予約購入時、送料別。予約購入時、送料別。